

令和4年度 県立勝田特別支援学校 自己評価表

【別紙様式2】

No. 1

目指す 学校像	◆児童生徒と教職員の笑顔があふれる安全で安心な学校 ◆児童生徒が主体的・協働的に取り組み、もっと学びたいを育てられる学校 ◆児童生徒も教職員もみんながほめられる、認められる、活躍できる学校 ◆地域、保護者、関係機関等と教職員が連携・協働できる魅力ある学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ・児童生徒の「学びたい」を育てるために、個別の指導計画の目標達成に向けて、教職員がそれぞれの個人目標を設定し、授業づくりに取り組んだ。 ・児童生徒の一人一台タブレット端末導入と同時進行で、ICT研修及び授業実践に取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染予防対策として、学習内容の検討・学習環境の整備や意識向上に努め学習活動を展開した。 ・安全安心と魅力ある学校を遂行するために、危機管理はもちろん魅力ある教職員の姿を掲げ、児童生徒の手本となる態度・行動、言葉遣い、日常的な整理整頓、清掃等を実施した。 <課題> ・更なるICT活用及び指導内容の工夫をととした重度・重複障害児童生徒の指導の充実。 ・ICT活用と同時に教師同士の対話を重視し、業務の効率化を推進するとともに信頼関係を築きながら教師の働き方改革への改善と多忙感の軽減を図る。	1 (1) 一人一人の違いを認め、子どもの強みを生かし、良さが発揮できる教育環境の工夫 (2) 達成感や満足度を高める成功体験の工夫 (3) 他者に対する尊敬と感謝の気持ちを大切にしたい人間関係の推進	①一人一人の合理的配慮がなされた教育環境づくりの充実 ②チャレンジする気持ちを引き出す環境づくり ③児童生徒に寄り添い、良さを認め、励ます取り組み ④認め合う、確かめ合う活動の工夫 ⑤「いつでも どこでも だれとでも」あいさつで心をつなぐ取り組み ⑥異なる見方や考え方を認め、可能性を伸ばす取り組み ⑦「ありがとう。」「ごめんなさい。」等の気持ちが言える安心できる環境づくりの取り組み ⑧思いやりや感謝の気持ちを育てる交流活動の取り組み ⑨夢やあこがれの気持ちを大切にしたい人間関係の取り組み	B
	2 (1) 一人一人の実態や教育のニーズに応じた学習活動の工夫 (2) 自己選択や自己決定等、主体性を伸ばす積み重ねの工夫 (3) 自己肯定感を高める教師のかかわりの工夫	⑩教育課程に基づいた系統的な年間指導計画の作成と実践 ⑪アセスメントを活用した個別の指導計画の実施・評価及び改善 ⑫児童・生徒の様々な課題やケースに応じた校内支援会議の充実 ⑬児童・生徒が「何やるの」という気持ちを大切にわくわくしながら活動する授業の工夫 ⑭失敗できる環境の中で、失敗から学ぶ体験や授業の工夫 ⑮積極的な教材教具の開発と工夫改善 ⑯認め合う、確かめ合う活動の工夫 ⑰異なる見方や考え方を認め、可能性を伸ばす取り組み ⑱他者との相互作用でできる取り組み	A
	3 (1) 高い危機管理の意識をもち、教員一人一人が児童生徒の安全を守るための体制の充実 (2) 自力通学者の安全通学とスクールバスの安全な運行の徹底 (3) 非常災害時を想定した危機管理体制の更なる改善・充実	⑲児童生徒の状況を見守り、死角を作らない体制づくり ⑳施設・設備の安全点検と異状箇所への迅速な対応 ㉑ヒヤリハット事例の集約と情報共有 ㉒通学指導の計画的な実施（自力通学判定会議） ㉓運行会社との日々の連携（スクールバス会議、添乗指導） ㉔学校のルールと社会のルールの連動の下で取り組む生徒指導の推進 ㉕各種避難訓練の実施（地震、火災、原子力、竜巻、Jアラート、不審者対応、引き渡し訓練） ㉖学校防災連絡会議、学校保健安全委員会の実施 ㉗教職員の救急救命講習会の受講	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価		成果（○）、課題（●）及び次年度（学期）への改善策（◇）
	国語	児童生徒が主体的に学習に取り組み、達成感を味わうことができる授業の工夫と改善に努める。	児童生徒一人一人の障害の状態等に応じた指導内容や合理的配慮の提供を考え、主体的な学びにつながる授業を実践していく。 年間指導計画や個に応じた教材・教具等、授業内容について各部門、教員間で情報交換を行っていく。	①③④⑩⑬	B	B	○年間指導計画に沿って工夫改善をしながら授業を実践することができた。「手紙の書き方体験授業」教材に申し込み活用できた部・学年もあった。 ●各学部での教材や備品管理について差が見られるので、次年度は統一を図っていきたい。 ◇備品管理は写真等を入れて見やすくしていく。
	算数 数学	児童生徒の「やってみたい」を引き出し、主体的に学習に取り組むことができる授業の工夫に努める。	児童生徒一人一人の実態に即した学習内容が組み込まれた年間指導計画を作成し、興味関心を生む学習内容や教師からの働きかけ、ICTの活用などを検討し、実践していく。	①②③④	B	B	○児童生徒の興味関心を引き、学習内容がわかりやすいように、タブレット端末のアプリを活用したり、生活に関連付けたりと工夫された授業が展開できた。 ◇グループ編成を行いグループごとに合った学習内容を計画、実践することができたが、より一人一人の実態に即した内容にするために、実態把握の方法を工夫していきたい。
	社会 ・ 理科	社会生活に生きる基本的な知識・技能の習得を図る指導計画の作成、及び授業の工夫に努める。	身近な出来事や事例、社会生活に必要な情報等を取り入れ、実際に機器を操作したり、調べたりまとめたりしながら、主体的、体験的に身に付けられる授業の工夫をする。 各学年の実践を次年度につなげられるように、ワークシートや指導案を残していく。	①②③④	B	B	○社会・理科ともにICT機器を活用したり実験を取り入れたりして、体験的に学べるよう授業を工夫した。 ●昨年度から独立した教科として設定されたため、授業実践例が少ない。 ◇ワークシートとともに内容が引き継がれるようにしていく。
	生活	学習指導要領の目標や内容を踏まえて、授業の工夫、指導の充実に努めるとともに、指導内容の振り返り及び改善をする。	授業に関する情報交換を通して、指導方法の工夫について検討する。 指導に関する反省を通して、学習内容の整合性や学年間の系統性を整理する。	①②	B	B	○授業に使用する教材について情報を共有することで、各学年で活用することができた。 ○植物の栽培、金銭の扱いの内容に焦点を当て、学年ごとに授業の反省を行った。係では、年間指導計画の見直しを通して、学習内容や系統性について整理することができた。 ●新設して間もない教科であるため、実践例が少ない。図書やインターネット、教科書等を活用して、様々な実践を行い、共有していきたい。
	音楽	音楽に対する興味や関心を高め、一人一人が豊かに表現できる授業の工夫に努める。	学習活動の充実を図るために、児童生徒一人一人の目標を担当学年で共有し、目標に沿って実践していく。教材教具や選曲、指導方法については、部や学年を超えて情報交換を行う。	①②④	B	B	○数か月に1回、楽器の貸し出しの希望を取り、学部内使用できるよう調整を行うことで目標に沿って実践できるように支援することができた。 ○星本の音楽データUCBを全学部の先生が共有できるフォルダーに入れることで共有しやすくなった。
	図画 ・ 工作 ・ 美術	児童生徒の興味関心に基づいた、実態に応じた具体的な支援方法や一人一人の合理的配慮について検討し、良さを認め合える授業実践に努める。	日常生活から児童生徒の興味関心を探り、実態に応じた支援方法や合理的配慮について情報交換をしたり、系統性を踏まえた年間指導計画を実践したりする。	②③ ⑩	B A	B	○すべての校内作品展・校外作品展を実施することができた。アートギャラリーや夏休み校内作品展については、学校HPを活用して発信することができた。校外作品展では、今年度から「プリントチョコレート絵画展」に出展することができた。 ○ナイスハートフェスティバルの賞状では、各担任に出展児童名を入力してもらうことで、名前の間違いがなく、印刷できた。 ○係の人数が少ないながらも、協力して進めていくことができた。 ●勝陽祭と絵画展が重なることで、各学年の作品出展の負担と係の負担が大きかった。 ◇再来年度の勝陽祭開催時期の検討を早めしておく。 ◇作品展において、HPアップがなければ、出品できる児童数が増える。
		児童生徒の芸術活動の経験や感性、表現及び鑑賞に関する資質・能力の向上を図ると共に、作品に関する情報発信に努める。	児童生徒の美術活動の幅を広げ、認め合える場面を設けるために、校内展示や校外展示等への作品出展を行うと共に、ホームページ等を利用して児童生徒の作品に関する情報発信等を行う。	⑬⑯			
	保健 ・ 体育	ICTを活用して運動課題の克服に向けた取り組みに努める。	運動時の様子をICT機器を使って確認し、体の使い方やフォームなど、生徒自らがどのような点を改善していけばよいか気づき、運動課題の克服に主体的に取り組めるようにする。	②③④	B	B	○各部で、感染症対策をしながら運動量を確保した授業実践をすることができた。 ○ICTの活用に関しては、友達の動きの動画撮影をしたり、動画で自分の動きを振り返ってみたいすることで、主体的に改善に取り組む様子が見られた。 ○特体連体育大会は本校が当番校として会議を主催し、次年度の開催に向けた充実した話し合いができた。 ●保健体育係で管理している備品と部活動で管理してる備品が混ざっている状況なので、整理を進めていく。
		各種のスポーツ大会に関する情報発信と参加に向けた計画および準備に努める。	部活動など、様々な機関と連携を取りながらスポーツ大会に関する情報を発信していく。また、大会参加に向けた練習を実践していく中で、スポーツに対する興味・関心を深め、卒業後も継続して運動に取り組めるような活動を展開する。				
	職業 ・ 家庭	よりよい生活の実現に向けて、衣食住及び消費生活にかかわる実践的・体験的な学習活動の実践を行い、生活に般化できるように努める。	各学年の連携を図り、学習内容の情報交換を通して、系統的な指導が実施できるようにする。また、他教科との関連を意識した教科横断的な年間指導計画の検討を図る。	①⑩⑮	B	B	○学習内容について各学年で情報交換を行い、指導ポイントを確認しながら指導することができた。 ○清掃用具の使い方や掃除の仕方など、段階的にスキルが身に付けられるよう指導することができた。 ●調理に関する体験的な活動に制限があり、代替的な活動を行った。 ◇調理に関する体験的な活動において具体的な工夫・改善を検討していく。
			家庭生活、職業生活に活かせる清掃活動を年間を通して行い、清掃スキルが身に付けられるように、指導にあたる。	②③	B		

各教科等	家庭	よりよい生活の実現に向けて、衣食住及び消費生活、環境にかかわる実践的・体験的な学習活動の実践を行い、生活に般化できるように努める。	生徒個々のライフキャリアを意識した実現可能で実践的な授業づくりについて話し合いをもち、発信する。 学習内容の情報交換を通して学年間の連携を図り、系統だった指導が実施できるようにする。	⑩⑪⑬⑭⑮	B	B	○生徒個々のライフキャリアを意識した実現可能で実践的な授業を年間指導計画に基づき、情報交換を行いながら系統だって行うことができた。 ●成人年齢の引き下げや金融教育など新しい課題を指導に取り入れる必要がある。 ●調理に関する体験的な活動に制限があり、代替的な活動を行った。 ◇調理に関する体験的な活動において具体的な工夫・改善を検討していく。
	職業	卒業後の進路に関する知識・技能と実践的・体験的な活動を関連付け、将来にわたって活用できる力の育成に努める。	外部講師による清掃講習内容の共有や清掃検定を継続することで、系統的にスキルを身に付けられるようにする。	②⑫⑭	B	B	○外部講師による清掃講習内容の共有や清掃検定の継続で、学校全体で系統的にスキルを維持、向上させることにつながった。生徒の発達段階に応じて分かりやすく清掃工程を提示する工夫も行い、スモールステップでのスキル習得や自信をもって働く態度につなげてきた。 ●知識、技能、態度をバランス良く育てる授業の在り方を検討する。 ◇学年間でさらに情報交換を行い検討していく。
			生徒の発達段階に応じた清掃方法や教材を工夫することで、高められる経験を重ね、自信をもって実践できる環境を設定する。	①③⑮	B		
	特別の教科 道徳	特別支援学校における道徳の授業について、実践内容の検討・整備を行い、道徳の指導の充実を図る。	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための指導を目指した授業の充実に向けて、年間指導計画に沿った各部の授業の実践の紹介、情報交換を行い、共有する。	①②③	B	B	○令和4年度道徳教育全体計画を作成し、classroomにて校内全体に周知することができた。 ○年間指導計画の内容を係内で共有し、道徳科における情報モラルの内容について来年度以降の年間指導計画に反映させるために検討することができた。 ◇追加された情報モラルの内容について授業し、振り返りをする。 ◇年間指導計画の様式の検討をする。
	日常生活の 指導	基本的生活習慣や集団生活をする上で必要な知識・技能を身に付けるための指導のあり方について検討し、指導内容の工夫に努める。	「日常生活チェック表」の活用方法について、年度初めに小学部職員に周知する。	④⑤	A	B	○「日常生活チェック表」については、年度初めにclassroomで学部全体に周知することができた。また、小学部ファイルの保管書類について主任会で議題にあげていただき、「日常生活チェック表」は次年度も継続となった。引き続き、チェック表の活用を促していきたい。 ●日常生活の指導の係の教員全員がそろうことが少なく、係会の日程調整が困難であり、部間で情報共有をする時間がとれなかった。 ○備品や教材は教材室に保管しており、必要に応じて活用していた。
			日常生活における、着替えや排泄、食事等の指導について、各部間で情報共有を行う。	①②③	B		
			備品や教材の活用を推進する。	②③	B		
	遊びの 指導	児童の実態に応じた指導ができるよう、指導内容の工夫に努めると共に、効果的な教材の活用にも努める。	各教科との関連を踏まえ、学習指導要領に基づいた指導内容、目標となるように、年間指導計画の見直しを行う。	①	B	B	○児童の発達段階に応じた指導内容となるように、次年度の年間指導計画の見直しを行うことができた。 ○長期休みに、教材・教具の整理を行うことができた。新しい教材についてはclassroomで周知することができた。
			管理している備品や教材の一覧を回覧し、授業での活用を推進する。	①⑮	B		
	生活単元学習	学校生活や社会生活に必要な基本的な知識や技能・態度の習得を目指した指導ができるよう、授業の充実と改善に努める。	各部で連携し、授業内容等の情報交換を行い、指導の充実に努める。また、各学年の学習内容の整合性を確認し、発達段階に応じた系統的な指導となるように、年間指導計画の見直しを行う。	①⑩⑮	B	B	○小学部の外国語活動については、各学年の学習内容等の情報を収集し、発達段階に応じた学習内容となるように、系統表を作成することができた。今後、次年度の年間指導計画の作成で活用していく予定である。 ●外国語活動は昨年度から新設した内容なので、実践事例が少ない。学年間の情報交換の場を設けたり、小学校の実践例の情報収集をしたりしていきたい。
	作業学習	将来を見据え、主体的に思考し、判断し、表現する力を育むことができる授業の充実と改善に努める。	作業内容の見える化（作業手順書の表示）と製作過程における改善力と発展力を促す言葉掛けをすることで、自ら考え、的確に判断しながら自分で作業を進められるようにする。	②④⑥	A	B	○各部・各作業班で「生徒たちが自ら考え、的確に判断しながら自分で作業を進められるように」活動内容などを工夫したことでよりよい作業学習を展開することができた。また、各部で販売や頒布などをとおして保護者などにも活動の成果を発信する機会を設けることができた。 ●中学部と高等部で作業学習について情報交換などをする機会をもう少し設けてもよかった。
			発信力の向上（取り組みの紹介や製品展示・宣伝方法）により、自己表現力を高められるようにする。	③④⑥	B		
			作業活動をととして、将来の自己の適性について考えられるようにする。	⑥	B		

	特別活動	児童生徒の実態に応じた指導計画を作成するとともに、授業の充実・改善に努める。	全校集会や各部の集会、委員会、生徒会活動の充実を図り、児童生徒の主体的・協働的な活動を促し、学校生活を豊かで楽しいものとなるよう支援を行う。	①③	B	B	○全3回の全校集会を行った。感染症対策を踏まえて生徒が主体的に企画運営や楽しい活動となるかを考えることができた。委員会活動やクラブ活動など児童生徒が主体的に活動に取り組む姿がみられた。
			「あいさつ強化週間」を位置付け、マナーアップ週間と同様に生徒会を中心にあいさつ運動を行う。年度末には、活動内容などを反省、見直しをする。	②③	B		○あいさつ運動では、ポスター掲示や動画撮影を行い、あいさつや身だしなみなど意識できるよう生徒会が主体となり、呼びかけることができた。 ●次年度は状況に応じて、立哨でのあいさつ運動など実施方法の検討を行う。
	自立活動	児童生徒の障害の困難さに応じた自立活動の指導の充実・改善に努める。	セラピスト等学校訪問事業にかかわる研修会を企画・運営し、外部専門家の活用および連携を図る。また、外部専門家の助言を参考にしながら、教育的視点にかえて児童生徒の学習や生活上の困難を改善・克服するための支援に生かせるようにする。	⑪⑫⑬	B	B	○今年度は、セラピストを招いて研修会を実施することができた。相談した児童の支援に役立つことができた。第2回研修会については、時間に余裕があり、セラピスト講話取り入れ、児童生徒の支援に生かせるようにした。 ●研修会のもち方については、状況を判断しセラピストと連携しながら検討していく必要がある。
	総合的な学習の時間	児童生徒の将来の自立と社会参加を目指すために、系統的・段階的な指導方法について検討し、授業や年間指導計画の改善に努める。	新学習指導要領に基づき、「わかりやすい」「やってみよう」授業づくりを行うための学習内容を検討する。児童生徒の社会参加を目指すために、交流学习などの体験的な学習・就業体験などの社会体験などを各部で実施できるよう、関係各所と連携を図る。	①②④⑥	B	B	○佐野中学校との交流では、学校間で連携を図り、生徒同士の有意義な交流学习ができた。 ○仕事体験では、進路担当者と連携し、新たな会社から頂いた部材での校内実習ができた。 ○今年度よりALTの授業を実施し、該当学年（小5、中学部、高等部、訪問教育）の担当者とALTとで事前打ち合わせを通して、授業検討ができた。また、当日の交流では異文化交流を楽しむ様子が見られた。 ●ALTとの打ち合わせでは、係以外の先生に通訳をしていただいた。 ◇ALTの授業では、より異文化交流の機会を大切に、各学年の実態に応じた活動内容を検討していきたい。
			各部でよりよい系統的・段階的な授業実践ができるよう、「総合的な学習の時間」について情報収集や授業検討を行う。また、ALTの導入、年度末には、年間指導計画の見直しを行う。	①②④⑤	B		
教務部		児童生徒が社会の中で生活していく基盤づくりとなるよう、地域とのつながりを大切に、教育活動についての理解啓発に努める。	各部、各分掌部と連携し、会議の充実、各業務の改善点の具体化と実施、各様式等の活用しやすい周知と実施の確認について推進する。感染状況に応じた地域との交流方法を工夫するとともに、日々の教育活動を地域に発信していく。	①②③⑧⑩⑬⑮⑯	B	B	○勝特だよりを地域の自治会に回覧、学校公開において、児童生徒の学習や行事の様子、学習教材や作品などを数多くまとめてホームページにて案内することができた。 ○オンライン、ペーパーレスの会議が定着し、時間のロスもなくスムーズに実施できた。児童生徒の状況において、管理職や関係の職員と随時情報共有することで、教育活動においても見通しをもって推進することができた。 ○情報提供を元に職員全体が授業や指導、校務で普段から機器を使用しており、活用能力や知識・技能が向上している。 ○クラスルームでの情報共有、会議のオンライン化、保護者や職員への連絡、児童生徒出欠連絡、諸帳簿等、ICT化が進み日常的に使用している。 ●今後もICT活用が求められていく中で、職員の知識技能は現状で十分とは言えないため継続して情報提供や学ぶ機会を設けていく。 【新規採用研修及び現職教育】
		指導・支援の充実に向けて、教員の事務的業務の削減・効率化を目指し、改善に努める。	児童生徒の実態に応じて、効果的な場面でICT活用をしたり、情報リテラシー教育をしたりできるように、教員の知識・技能向上のための支援をする。業務を効率的に行うためのICT化を推進し、教員が日常的に使用できるようにする。	①②⑬⑭⑮⑯	B		○研修用の資料をデータ化し、共有したことで紙媒体の準備などにかかる業務量の削減をすることができた。 ○夏季休業期間などにグループ研修を行い、職員間の人権教育への理解促進に繋げることができた。
		職員の研修を円滑に進めるため効率的、計画的な研修業務の運営に努める。	連絡や資料提示など、情報機器の有効活用による見える化・わかる化を目指し、業務の効率化を推進する。職員研修の企画・運営を行い、人権教育への理解を深める。	③④⑤	A		○各部学年、学習指導部と連携のもと、期限内の教科用図書受領報告及び次年度採択の教科用図書の選定業務を遂行することができた。 ●転入生の教科書二重給与が無いよう、引き続き共通理解、確認作業を十分に行う必要がある。 ○係内職員で協力して、図書室の整理及び読書喚起を行うことができた。
		より児童生徒の実態に即した教科用図書の選定に努める。 読書活動の推進、学校図書の活用を促す。	速やかな教科用図書受領報告及び、各学年、学習指導部等と連携の上、令和5年度採択の教科用図書選定業務を進める。図書室の整理、本の紹介や図書展示の工夫をし、読書喚起を行う。	①③⑬⑮	B		
		日頃の学習成果の発表をとおして学習活動や社会参加への意欲を高め、特別支援教育に対する理解と認識を深める。	各部、分掌部と連携し、学習成果を発表する場に積極的に参加し、生徒の学習活動参加の意欲を高める。	③⑥⑬⑰	A		

教育 支援部	各部・学年と連携を図り、校内の児童生徒への支援を充実させるとともに、交流及び共同学習の推進に努める。	教育相談係会、ケース会議、校内研修等を活用し、他分掌とも連携して、児童生徒および教職員を支援する。	⑫	B	B	○生徒指導部と連携し不登校児童生徒の状況把握、登校支援等情報を共有することができた。また、係内で定期的に児童生徒の情報共有を行った。 ○部ごとにS-M社会生活能力検査検査法の研修会を行った。 ●教職員の専門性を高めるために校内研修会を計画していきたい。 ○居住地校交流は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施時期を変更したり見送ったりすることもあったがおおむね実施することができた。 ○学校間交流は、小学部はオンライン、中学部高等部は対面で実施することができた。 ●学校公開は今年度オンラインで行った。就学等に関わらず地域の人たちへ本校の理解啓発ができる場が広がるとよい。 ○体験入学や学校見学、授業体験などを通して本校の理解啓発につながった。また、巡回相談で教職員向けの研修会を行い、特別支援教育について理解を深めることができたと思う。
		交流を行う児童生徒への学校における合理的配慮を交流相手に伝え、交流内容を十分に検討し、学校間交流・居住地校交流を互いに充実した交流にする。	①⑧	B		
	特別支援学校の専門性を生かした地域のセンターとしての役割を充実させ、特別支援教育の推進に努める。	教育相談、学校見学、体験入学、学校公開等を通して、校外の保護者および教職員等に、知的障害特別支援学校等の情報を提供し、適正な就学を促せるよう、内容や方法を工夫する。	①⑩⑪	B		
		巡回相談や関係機関との連携のもと、支援対象となる学校等・職員の方たちと役割分担しながら、児童生徒への支援をともに考える。	⑫	B		
研究研修部	アクティブラーニングを達成するため、教職員一人一人の興味関心のある手段を活かした授業づくりの検討を行う。	「児童・生徒がアクティブに学ぶ授業をつくろう」をテーマとした研修会を企画・運営することで、教職員一人一人が必要な内容を研修できるようにする。	①②③	A	B	○教員の興味関心に応じてチームを編成したことで、授業実践に関する情報交換ができた。 ○外部専門家による講演会を2回実施。事例の紹介を通して、授業改善についての助言を得ることができた。 ●チームが複数あったため、研究研修部から直接伝達したり質問などを受けたりする機会が持ちにくかった。 ◇研修の形態を工夫したり、学部会などで伝達したりする。また回覧板や掲示なども取り入れ、研修に関する情報が入手しやすくなる工夫をする。
		「主体的」、「対話的」、「深い学び」の3点と「チームによる研修」をポイントにすることで、アクティブラーニングを主軸とした授業づくりができるようにする。	⑬⑭⑮	B		
学習指導部	学習指導要領の育成を目指す資質・能力の三つの柱を軸とした授業づくり、実践を行う。	三つの柱を軸とした年間指導計画、また、ICTを活用しながら授業づくりをすることで、児童生徒の学習の成果につなげる。	①②⑬	A	B	○年間指導計画、学習指導要領を基にして、計画的に授業づくりができた。 ○タブレット端末や電子黒板を利用して、児童生徒の興味関心を高める授業づくりができた。 ●各教科での年間指導計画の検討性や内容の見直しについて、計画的に実施できるよう、部長から係長、係長から年間指導計画作成者へと周知の仕方の共通理解を図る。 ●教材室の整理整頓、適切な管理や廃棄ができるように周知する。
		各教科で年間指導計画の目的に沿って授業を行い、単元（題材）や学習内容について見直しさらに検討していく。	⑩⑬	B		
		各教科における教材・教具を整理し、備品等の適切な管理に努める。	⑭⑮⑯	B		
生徒指導部	児童生徒の安全・安心に向けて、生徒指導上の諸課題に対して、校内の共通理解を図るための規則等を整備・構築し、一貫した指導に努める。	児童生徒の自己実現を図るための生徒指導の在り方について研究し、適切な生徒指導を実践する。 学校事故等の未然防止を図るため、環境整備や校内規程等を構築し、適切な対応に努める。 通学書類の運用と管理を適宜見直し、適切に処理を行う。 生徒会を中心にマナーアップ運動を行い、校内及び近隣地域と連携しながら、今の生活様式に適した活動を展開する。	⑰⑱⑲⑳㉑㉒	B	B	○通学生と保護者を対象に、いじめアンケートを実施した。アンケート結果はいじめ対策委員会で共有し、現状の共通理解を図った。いじめに該当する案件はなかったが、今後もアンケートを実施し、適切な状況把握に努める。 ○通学許可に関する手続きと通学書類の見直しを実施した。令和5年度から適用する。適用後も適切に運用されているかをチェックする必要がある。 ●佐和駅舎改築工事のため、今年度は、近隣の中学校、県立高等学校と連携したさわやかマナーアップ運動は実施しなかった。地域の中で交流を深める活動が継続できるよう、状況に応じた交流方法を構築する。 ○スクールバス車内への置き去りを防止するためのマニュアルを作成した。今後も、バス通学に関する各種マニュアルの見直しを定期的に行う。 ○ほほえみリーグ（サッカー部）や蛭駅伝（陸上部）等、外部主催の大会が3年振りに開催され、中学部高等部の生徒が出場した。 ●大会に向けた計画を立てるに当たり、教職員の経験者が減少しており、教職員間の引継ぎが課題となった。
		スクールバスの安全な運行を徹底するため、児童生徒の実態把握を行い、事故等の未然防止に努めるとともに、発作マニュアルの情報共有や感染症対策への迅速な対応など、緊急時の適切な対応に努める。	㉓㉔	A		
		生徒が自主的かつ主体的に活動する部活動の推進を図る。自らスポーツや文化的活動を楽しむ態度を育て、将来の余暇活動に役立てる。	⑰⑱⑲	B		

進路指導部	将来の自立と社会参加に向けて、小学部段階からの段階的・系統的な進路学習の実践に努める。	各部での体験学習や高等部の実習など、本物に触れる機会を設定することで、児童、生徒が主体的・協働的に学習できるようにする。また、個に応じた進路指導ができるように、時期や期間にとらわれず実態に応じて体験学習や実習を実施する。	①②⑨⑬⑭	B	B	○中学部では、職場見学、仕事体験、高等部では、職場体験、福祉施設体験、校内実習、現場実習を実施することができた。仕事体験、校内実習において、外部から部材を提供していただき本物を扱う経験ができた。 ○福祉施設説明会、進路講演会を実施することができた。福祉施設に掲示物を作成していただき、保護者会や文化祭で保護者・教員に情報提供できた。また、YouTube限定公開で情報提供できた。 ●情報発信の工夫をしていきたい。 ◇学部毎の保護者懇談会において、施設の紹介動画や進路状況の情報提供を行う。 ●進路講演会の実施方法の検討していきたい。 ◇進路講演会を対面式でも実施できるようコロナ対策、回数、時期を計画する。
		個別の指導計画に基づき、キャリア発達を促す進路指導について、各部での役割と学習内容について整理し、系統的な進路指導を行う。また、社会の変化に対応できるよう学習内容を検討する。	②⑨⑭	B		
	進路指導に関して、教員の専門性の向上を図るとともに、進路に関する情報の発信の充実にも努め、家庭、地域、関係機関と連携した進路指導の充実にも努める。	校内外研修会、進路講演会の参加など研修の場を充実させ、教員の専門性を向上させることができるようにする。また、実施方法を工夫し、機会を確保する。	①③⑥	A		
		児童生徒や保護者が将来のイメージがもてるよう、情報発信に努め自立と社会参加に向け大切なことへの理解を促す。また、地域資源の活用や関係機関と連携を積極的に行う。	②⑬⑱	B		
保健安全部	関係機関との連携を図り、児童生徒が自らの健康を守るために主体的に行動し、改善に向けて取り組むことができるよう、体制の整備に努める。	校医や学校薬剤師と連携を図り、感染症対策のテーマに沿った内容を検討し、児童生徒が主体的に参加できる学校保健委員会の運営に取り組む。	⑫	B	A	【環境】 ○高等部サービス班、中学部土班との協力で花壇、植木鉢の整備が格段よくなった。次年度も継続していきたい。 ○掃除用具も、ブラシやサニタリーボックスなど全箇所でも一新できた。 ○駐車場作成や神社裏の環境を係全体で協力できた。 ●来年度も高等部農業班と連携しよりパンジー等の苗を移植していきたい。 【保健指導】 ○年間2回の学校保健委員会を実施した。特に2回目は係のメンバーが所属する学年の児童生徒の保健・食育活動を写真や動画で集めてもらい、報告することができた。 ●義塾教諭と連携し、児童生徒のてんかん発作マニュアルを作成、教員らによる緊急対応訓練をする。 【食育】 ○手軽に作れる朝食メニューの紹介の他、給食委員会で給食にまつわるクイズ動画を制作し、全校集会で紹介した。 【防災安全】 ○各避難訓練において、災害時どのように行動すればよいかを考え、災害意識を高め、自分の命を守ることにについて考える機会となった。 ●避難訓練実施から課題が見つかり、災害対応マニュアルの見直しを図るための参考とすることができた。
		生活リズムを整え、生活習慣病予防につなげていけるよう、手軽に作れる朝食メニューのレシピを給食だよりやホームページ等で情報提供する。また、給食を作るための機械の紹介や地産地消についてなど児童生徒が観て学べる動画を制作する。	⑫	A		
	災害安全、生活安全、交通安全に関する内容を関連づけ、児童生徒の対応力の向上を図るための安全教育の在り方について検討を行う。	児童生徒が自分の命を守ることを意識しながら学校生活を送るため、随時情報を収集しながら、感染症予防の徹底のためのポイントについて教職員間で周知を図り、具体的な取り組みを提示していく。	⑫⑮	A		
		災害発生時において、児童生徒の主体的な行動を促せるよう、状況に応じた避難訓練や安全教育の実施方法等を計画し、実施する。	⑫⑮⑯	B		
		校内外の美化、学校環境の緑化に向け、清掃分担計画、清掃用具の点検・調整、除草作業等の運営を計画的に行う。特に、花壇の手入れに関しては生徒も協働して進める。	⑬⑯	A		
渉外部	地域、保護者、関係機関等と教職員が連携・協働し、保護者及び児童生徒の安全安心な活動に努める。	状況に応じた会議運営の方法で、迅速な計画と案内に心がけ、PTA活動全体が円滑に行えるようにする。	⑨	A	A	○感染対策をとりながら、迅速な計画と案内に心がけ、各会議・委員会をスムーズに行うことができた。 ○PTA主催行事の「夏まつり」や「茶話会」など、役員の方々を中心に計画した。児童生徒にとって楽しい体験となったたり、保護者にとっていろいろと情報交換をすることができたりと、有意義な活動ができた。 ○令和4年度茨知P連第3回会員研修会の担当校として、オンラインで実施した。 ●PTA総会について、感染状況を踏まえて実施方法と内容の検討をする。 ◇一堂に会して実施するために、時間を短縮（日程を午前中のみにする等）するなどの実施方法と内容を検討する。
		関係分掌部や係との連携を行い、個人情報に留意し、保護者の主体的な活動となるよう、計画的に委員会活動を進める。	⑧	A		
		関連する外部団体からの連絡等を保護者へ周知し、知識を得る機会を提供できるようにする。	④⑨	B		

小 学 部	「できる」「できた」の体験を積み重ねる中で学ぶ楽しさを感じ、自ら取り組んだり、自ら考え、選択したりしようとする授業づくりに努める。	保護者および教員間の連携により的確な実態把握を行い、具体的に達成可能な目標設定と評価に努める。わかりやすい板書の工夫と改善、児童が考え、選択する機会を大切にした授業づくりに努める。児童が期待感をもち主体的に参加できるよう、タブレット端末の活用と個に応じた教材教具の作成に努める。	①②⑩⑪⑬⑭ ⑮⑯⑰	B	B	〇キーワードを活用したわかりやすい板書を意識することで、本時の目標、学習内容、評価の観点等の明確化につながり、指導に対する教員間での共通理解にもつなげることができた。タブレット端末の活用においては、積極的な活用が進み、児童の実態に合わせてアプリを活用するなどして表現や思考の手段として活用することができ、児童が自ら考えて取り組む授業づくりの一助とすることができた。「できた」ことを積極的に評価する姿勢が評価を大切にする授業展開や教材づくりに生かされていた。 ◇次年度は、より実態に応じた目標設定や活動内容を意識して、児童一人一人が主体的に取り組める授業づくりを目指していく。 〇生活科や日常生活の指導を中心に、社会生活に必要な事柄の指導に取り組むことができた。昨年度に見直した年間指導計画に基づいた実践の中で、校外学習や校外活動もおおむね予定通り実施することができ、体験的な学習を充実させることができた。 〇多様な児童の発達段階、個性、変化に応じ、それぞれに合った活動方針やかわり方によって、安全・安心な学習環境を整えることができた。 ◇今後は、より個別の働きかけが必要と考えられる児童においても、校内外の連携を活用して改善の方向性を探っていきたい。
	遊びや集団活動を充実させ、発達段階に応じて社会のきまりやマナー、人とかかわりなど、社会の一員として生活するために必要な力の指導の充実を図る。	遊びや集団活動をととして、社会のきまりやマナー、人とかかわりなどを経験的に学ぶ指導の充実を図る。現在の生活や将来の社会参加を見据えた生活にかかわる内容を精選し、発達段階に応じて社会の仕組（公共機関、仕事や役割、金銭等）がわかる指導の充実を図る。児童の手本となるよう、正しい言語環境づくりや身だしなみ等の生活習慣の意識向上に努める。	③⑦⑰⑱②④	A		
	安全・安心な学習環境と信頼できる人間関係の充実を図り、児童一人一人が安心して主体的に活動できる教育環境づくりに努める。	安全で清潔な学習環境づくりのために日々の清掃や点検を徹底する。危険箇所や児童の変化への気づきを大切にし、教員間で情報共有に努める。児童のよさを積極的に褒めることや肯定的な言葉やかかわりを大切にし、児童の自己肯定や心の安心につながるよう努める。	③⑦⑱②②④ ⑤⑦	B		
小 1 年	基本的生活習慣の確立を目指すとともに、児童一人一人の興味関心と教育的ニーズを踏まえた授業を実践することで、学習への意欲を高め、主体的に学校生活を送ることができるようにする。	連絡帳や個別面談などにより基本的生活習慣や心身の状況を把握し、個々の課題を明確にする。また、個に応じた支援を行うことで、自分でできることを増やすとともに、自分でやろうとする心情を育てる。	①②④	B	B	〇日々の連絡帳だけではわからないことや伝えられないことも多いので、面談や送迎の際、電話連絡の際などに家庭での様子などを聞きながら、学校での支援にあたることができた。 〇映像や音声などの教材を使用したり、楽しい雰囲気や支援をすることで、興味関心を引き出すことができた。 ●「できた」「わかった」などの達成感を味わっていたのか、主体的に学習できていたのかに関しては、児童の反応からはわかりにくい部分もあったので、引き続き支援をしていく必要がある。 〇友達や教師と安心して学校生活が過ごせるような雰囲気づくりをしたことで、欠席の児童も少なく毎日楽しく過ごすことができた。ケガをするような危険な行動、友達の嫌がる行動に関しては、その都度ルールを伝え指導することができた。
		ICTの活用や児童の興味関心に即した教材や支援を取り入れることで、主体的に学習する態度を引き出し、授業の中で「できた」「わかった」など学ぶ意欲につながる達成感を味わうことができるようにする。	①②③④⑤	B		
		学校生活の中で、友達や教師とかかわる楽しさや伝わる喜びを感じ取ることができるようにするとともに、基本的なルールやマナーを学習活動に取り入れることで、安心安全な学校生活、社会生活を送ることができる力を育てる。	①②⑥	A		
小 2 年	一人一人の発達段階やニーズに応じた教育を実践することで、基本的生活習慣の確立を目指すとともに様々な学習活動や人とかかわりへの興味・関心を高め、主体的・協働的に行動しようとする意欲を育てる。	教材や板書を工夫し、わかりやすい授業を心がけることで、学びたい意欲や達成感を味わえるようにする。挑戦する気持ちや相手を意識できる力を引き出せるよう、児童同士が協力し、集団で取り組める活動を設定する。	①②⑬⑮⑱	B	B	〇教材や板書、言葉かけの工夫などにより、実態に応じたわかりやすい授業を行ったことで、児童の主体的な活動を引き出すことにつなげることができた。 〇共同制作などの活動を取り入れたことで、協力して取り組む気持ちを引き出すことができた。 〇日常での連絡帳のやりとりや個別面談をととして保護者と連携を図ることができた。 ◇「日常生活の指導」の時間を活用し、身の回りの整理整頓に取り組む時間を設定することができた。今後はコロナの状況を鑑みながら、児童が取り組める清掃活動を取り入れていきたい。 〇「道徳」や「自立活動」の授業において、日常生活場面を想定した言葉や動作などのやりとりの学習を行うことができた。 ●好ましいコミュニケーション方法の獲得や言葉づかいについては、今後も指導を続ける必要がある。
		連絡帳や面談をととして、保護者と情報交換を行うとともに、個別の指導計画について共通理解を図り、個に応じた支援を行う。 日々の清掃や点検を行うとともに、身の回りの整理整頓を意識できるような言葉かけやタイミング等に配慮することで、安全、安心な学校生活を送ることができるようにする。	①⑩⑪⑮⑱②④	B		
		学習活動や行事等で様々な人と触れ合う中で、人とかかわる楽しさを感じ、自分の気持ちや考えを相手に伝える手段の確立や相手を思いやる気持ちの育成に努める。	⑤⑧⑯⑰	B		

小3年	個に応じた教育活動の実践を通して、基本的生活習慣の確立や、主体性を伸ばす活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を目指すと共に、「できる」「できた」という達成感が実感できる授業づくりに努める。	連絡帳や面談をとおして、保護者との連携を図り、学年間で情報を共有することで、児童の実態把握を行い、「やってみよう」と思える授業づくりに努める。児童の実態に合わせた居住地交流や地域交流を計画、実施することでお互いに思いやる気持ちを育てる。	①②⑤⑥⑦⑧ ⑨⑬⑲⑳㉑	B	B	○連絡帳や面談、必要に応じて電話連絡をすることで、保護者と連携を図ったり、教師同士で日頃から児童の情報交換を行ったりすることで、個に応じた教育活動や授業づくりに努めることができた。また、居住地交流、地域交流では、事前に情報交換や準備を行ったことで、お互いを知り有意義な交流を実施することができた。 ○児童が興味をもっているタブレット端末を効果的に活用し、「できる」と思って挑戦したり、「できた」と達成感を実感したりする授業を行うことができた。 ○手洗いや季節に応じた服装の選択など、基本的生活習慣の確立を図ることができた。また、約束やマナーについて学び、校外学習や日々の生活の中で約束やマナーを守って行動できることが増えてきた。 ●気持ちが不安定になったときに落ち着くまで時間のかかる児童もいるので、切り替えをする様々な方法を児童が知り、習得することが必要である。
		一人一人の児童の学習課題に応じて、「できる」「できた」という達成感のもてる教材を工夫する。また、タブレット端末を効果的に活用し、授業内容をわかりやすくしたり、児童が選択する機会を設定したりししたりする。	②③④⑩⑪⑫ ⑬⑭⑮	B		
		基本的生活習慣の確立では、自分から気が付いてできるよう言葉かけや環境の設定をしたり、定着を図るよう繰り返し行ったりする。人との適切な関わり方や約束、マナーについて学び実行していくことで、コミュニケーション能力や社会参加の基礎を養う。	⑤⑦⑧⑨⑯⑰ ⑱	B		
小4年	「主体的、対話的で深い学び」の視点から「できる」「できた」を実感できる授業づくりに努めると共に、児童がどの活動主体的に取り組み、最後まであきらめずにチャレンジしようとする気持ちを育成する。	保護者との連携を密にし、共通理解を図りながら発達段階や生活年齢に応じた教育実践に努める。また、学年の教員間で児童一人一人の指導目標や方法について情報を共有し、一貫した指導、支援に努める。	①⑪⑬⑯⑲㉑	B	B	○連絡帳や電話連絡、面談や送迎時のやりとり等を活用し、保護者と児童についての共通理解を図ることができ、課題達成に努めることができた。 ○学年会の際、児童に関する情報を常に共有したことで、クラスを超えた活動時でも一貫した指導を行うことができた。 ○教員一人一人がICTの活用を含め、個に応じた教材教具を工夫しながら授業を実践したり、児童同士で話し合う活動を多く取り入れたことにより「主体的、対話的で深い学び」による授業改善を多く実践することができた。 ●障害の重い児童に対する具体的な評価方法に関しては、今後も検討や見直しが必要である。 ○授業の中で、児童自身が自ら考え、主体的に活動できるよう、教員は支援を控えて見守る場面を随時設定した。成功や失敗を経験することに教師が、アドバイスをしたり、励ましたりしたこと、徐々に失敗を恐れず進んでチャレンジしたり、失敗しても再度取り組んだりできる児童が増えた。
		タブレット端末の効果的な活用や個に応じた学習内容や教材教具の工夫、「できる」「できた」を実感できる評価方法の工夫に努めるなど、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善を進める。	⑩⑪⑬⑮⑯⑰	B		
		成功体験の積み重ねや失敗から学ぶ体験の中で、児童の気持ちに寄り添いながらよさを認め、励ます支援を丁寧に行うことで、自己肯定感を高め、どのような活動にもあきらめずにチャレンジしようとする気持ちを育てる。	②③④⑥⑭⑯ ⑰	B		
小5年	児童が自ら考えたり、判断したりできるよう、一人一人のニーズや発達段階を踏まえた教育活動を実践する。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりに努め、児童同士が共に学び、向上し合える資質や能力の育成を目指す。	保護者との情報交換や共通理解に努めたり、学年の教員間で、児童一人一人の実態や指導目標、支援方法について情報を共有したりして、一貫した指導、支援に努める。	①⑪⑬⑲㉑	B	B	○連絡帳や電話連絡、面談などで、保護者と情報を共有することで、より児童の実態に応じた支援を行うことができ、児童の成長につなげることができた。 ○会議や話し合いの場などで、こまめに情報を交換し、共通理解をすることができた。 ○児童の実態に合わせた教材・教具を準備することで、児童の「やってみよう」という気持ちを引き出すことができた。また、教材教具を通して、試行錯誤しながら学びに向かう児童の姿が見られた。 ○不適切なかかわりが見られた際には、教師が手本を見せたり、伝え方を支援したりすることでよりよいコミュニケーションをとれるようになってきた。 ●引き続き、コミュニケーションの取り方については、支援が必要である。
		児童のやってみようという気持ちを引き出したり、主体的に学習する態度を養ったりするため、児童の実態や興味関心に沿った教材教具を効果的に活用する。また、児童の実態に応じた評価に努めることで、児童の「できる・できた」が実感できる様	①⑬⑮	B		
		集団活動の中で、相手の気持ちを考えながら、より好ましいコミュニケーションを図ることができるよう、手本を示したり、一緒に考えたりする学習や場面の設定を意識して取り入れる。	①⑯⑰⑱	B		

小 6 年	児童一人一人が自分で考え、判断し、行動できるよう発達段階や特性に応じた教育活動を実践する。キャリア発達の視点に立ち、適切なコミュニケーション能力を培うとともに、自発的な活動への意欲を育てる。	児童が主体的に学習できるよう、積極的な教材教具の開発と工夫改善を行う。また、児童の反応を見極め、良さを認め、気持ちを共有していくことで、達成感を味わうことができるようにする。	①②③④⑥ ⑩⑬⑭⑮⑯	B	B	○児童が取り組みやすい教材教具の開発に努めた。また、児童の様子を見ながら、できる限りその都度教材の工夫改善を行うことで、実態に応じた授業を展開し、児童が主体的に学習できるようにした。児童の気持ちの取扱いを丁寧、複数の教員で行い情報交換し、児童に返していくことで、児童が達成感や自己肯定感を味わうことができる場面が増えた。 ○教員間で指導の方針を話し合い、見守ったり、個別に指導したりすることで、実態に応じた支援を行うことができた。連絡帳や電話、面談でのやりとりを通じて、保護者と情報の共有を図ることができた。 ●家庭と学校とで共通の認識をもって支援することについては、家庭への協力の促しが少なかったと感じる児童がいた。伝え方にもっと工夫が必要である。 ○学校生活全般において、コミュニケーションやマナー等についての指導を継続して行うことで、少しずつ児童の行動にも変化がみられ、適切な態度や言葉遣いがわかってやりとりできるようになってきた児童がいた。 ●一方で、時間の意識やめりはりのある態度の育成については、教員の意識が足りない部分もあったので、常に手本になることを忘れない姿勢が必要である。
		児童が、自分で考え、判断し、行動しようとする意識を向上することができるように、個別の指導計画や発達段階に基づいて、実態に応じた適切な支援を行う。また、教員間の共通理解や保護者との連携を図る。	①②③④⑥⑪ ⑱	B		
		あいさつや返事、報告、相手との距離感、場や相手に応じた適切なコミュニケーション方法を身に付けることができるよう日々の支援に努める。また、時間の意識や集団生活でのマナー、めりはりをもって生活できるよう、教師が手本を示す。	①⑤⑦⑭⑯⑱	B		
中 学 部	個に応じた適切な学習支援をすることで主体的に学び、「できる」「できた」を実感できる授業づくりに努める。	保護者と教員、教員同士の連携や生徒とのかかわりから適切な実態把握をし、小さな成功体験を積み上げていくことで目標を達成できるようにする。また、生徒の思考を促す言葉かけや教材の提示の工夫に努め、生徒が主体的に学べるようにする。	①②③⑩⑪⑬ ⑮⑰	B	B	○生徒の実態を基にした学習内容や課題提示の仕方、教材教具を工夫したり、ICTを効果的に活用したりすることで、生徒が成功体験を積み上げ、「できる」「できた」を実感することができた。 ●思考せずとも成功体験へ導くための指導もあった。 ◇生徒が目標を達成するために何を思考すべきかを授業者が見極め、共通理解することで、主体的、対話的で深い学びを促す。 ○作業学習では他学年や教師とのかかわりをおして、あいさつや報告等の適切なコミュニケーション力の向上と習得をすることができた。仕事体験では本物の部材を丁寧に扱い、生産性を上げることで主体性と協働性を育むことができた。職場見学では働く意義や姿勢を知る機会となり理解を深めることができた。 ●これまでや今の自分をワークシートにまとめることで客観的に自己理解できたが、これを基に将来になりたい自分を思い描くことが難しい生徒もいた。 ◇実態に応じた近隣の職場見学と、ICT活用による様々な職種を知る機会を設ける。 ○各教室とも教室設備を工夫して活用したり、生徒の実態に合わせた配置にしたりする等、整理整頓を心掛けることができた。また、生徒と共に清掃に取り組むことで、気持ち良く学習に取り組める環境作りに努めた。 ●教室内部のおたより等の掲示物は学年では統一されていたが、学年間では異なり部として統一されてなかった。また、生徒と教師の信頼関係あつての上で、友達同士のような呼名の仕方が見られた。 ◇年度初めに掲示物と掲示の仕方の確認を主任会で行うことで統一を図る。いかなる場合でも「Students First」＝「生徒へのリスペクト」を心掛けるよう定期的に伝えていく。
	将来なりたい自分になるために今の自分を客観的にとらえ、努力すべきことに取り組むことができる指導の充実を図る。	作業学習や職場体験、校外学習等を通して適切なコミュニケーションの仕方や社会生活のルールやマナーを学ぶとともに、働くことの意義を知り、将来自分がどうありたいか自己理解を啓発する。また、なりたい自分に向け日々努力する力を育む。	⑤⑨⑭⑰	A		
	安全で安心な環境の整備と生徒が個々の力をみんなのために発揮しようとする心を育成する。	学習環境の整理整頓や清掃に生徒とともに努める。また、生徒に対する丁寧な言葉遣いや呼名により、生徒が安心して自分のもてる能力をみんなのために発揮できるようにする。	④⑦⑭⑱	B		
中 1 年	小学部（小学校）段階で培った学習の成果および経験を様々な場面で生かすとともに、社会生活に必要な知識や態度を育成するための支援を実践する。	生徒一人一人の細やかな実態を行うとともに、ICTを積極的に活用することで、「わかる」「できた」を実感し、自ら取り組める授業を展開する	①②③④⑪⑬ ⑮	A	A	○動画やスライド教材を積極的に取り入れ、わかりやすい授業を展開することで生徒の理解が深まり、自ら教師の模倣をしたりするなど、積極的に取り組むことができた。 ○総合的な学習の地域交流や校外学習などにより、働くということについて考えたり、職業家庭科では家庭における役割や家庭生活における自分の頑張ることを考えたりすることができた。 ○教師間で挨拶したり声を掛け合ったりすることで学年運営はスムーズだった。また、事あるごとに生徒について共通理解できたため、支援体制も十分だった。
		総合的な学習や職業家庭科などの学習を通して、現在の自分および将来の自分について積極的に考え、社会生活に関心をもって日々の生活を営んでいけるような支援を行う。	②⑨⑭⑰	B		
		教師自らあいさつやマナーを実践し、互いに認め合い、共同的に活動できるような環境整備や支援体制作りに努める。	③⑤⑥⑦⑧⑯ ⑰⑱⑲⑳	A		

中 2 年	授業のユニバーサルデザイン化をすすめる主体的・能動的に活動できる支援を充実し、社会生活に必要な基本的な態度の育成に努める。	授業づくりの視点(授業構成、教材・教具、板書・ワークシート、話し方)を共有し、すべての生徒が「わかった」「できた」で終わる授業を提供する。	①②③⑬⑭⑮	B	A	○授業作りでは、生徒たちが初めは難しそうと思う内容であっても、導入や教材教具・ワークシートなどで何をどのように行うかを明確にすることで、最後には「できた!」と自信をもてる授業を行うことができた。 ○互いを認めること、あいさつを自分から行うことや朝の着替えや準備、帰りの着替えや帰りの準備など、自分のことを自分で行う主体性が身に付いてきた。 ○進路学習では校内作業学習では、外注で頂いた仕事の体験を通して、仕事への責任感や楽しさ、難しさなどを学習することができた。また職場見学や卒業生へのインタビューなどを通して、自分と向き合う時間を設定したことで自分の進路を考えることができた。 ●進路学習に関しては、自分のことと捉えたり、日々の生活と繋げて考えられるように継続して指導が必要である。 ◇職場見学先の検討が必要である。(実態にあった職種内容などを検討)
		肯定的な態度や言語環境を整え、あいさつや身辺整理等、主体的に活動し、社会生活に必要な資質能力が定着できるよう指導及び支援をする。	④⑤⑥⑦⑧	A		
		総合的な学習の時間で進路学習に取り組み、卒業生の進路先の見学や職場体験と校内作業実習をとおして、自分の進路について考える時間を設け、関心を高める。	⑨⑭⑮⑯⑰⑱	A		
中 3 年	生徒一人一人の実態や教育的ニーズに応じた学習活動を展開し、自己選択、自己決定の機会など自分から考え、主体的に学ぶ姿勢の育成とともに実践的なキャリア教育を進め、社会参加への意欲・知識・技能が高められる指導・支援の実践を推進する。	生徒の実態や教育的ニーズを多面的に分析し、それに適した課題設定とICT機器の利用なども含めた教材、教具の工夫を通して、生徒が興味をもち、自分から学ぼうと意欲的に取り組むことのできる授業実践に努める。	①②③⑩⑬⑭⑮	B	A	○自分で考え、解決していくような課題設定、授業展開、ICT機器の利用なども含めた教材教具の工夫に努めたことで、生徒が手順や方法をいろいろ考え、試しながら積極的に取り組むことができた。 ●パワーポイントを活用するよりも他の教材が適している課題があった。 ◇目標、展開を見直し、より生徒に適した授業ができるようにする。 ○生徒が取り組んでいる課題、努力している様子を的確にとらえて肯定的に評価したり、達成したことを称賛したりしたことで、自分を肯定的にとらえること、友達を認め称賛することが多くなった。また、教室環境などを定期的にチェックすることで、安全な学習環境を保つことができた。 ○進路学習や仕事の基本的なルール、態度の学習などを通して、物事には一定のルールがあり、それを守っていくことが必要であるとかわり、ルールを意識して守ろうとする様子がふえた。また、友達や後輩と協力して進めるためには話し合いが重要であることもわかり、自分の考えを伝えたり、友達や後輩の意見を聞いたりする力が育ってきた。
		日課を分析し、指導場面・態勢の把握に努めるとともに、肯定的な態度や言語環境を整え、生徒が安全、安心して取り組める環境づくりに取り組む。	④⑤⑦⑧⑯⑳	A		
		総合的な学習の時間や作業学習等の実践的な学習を通して、職業生活や家庭生活など将来の自己像を描けるようにする。これから自分の取り組む課題を意識し、社会のルールの理解、自分の考えを表現する力等、自立と社会参加に向けた指導を行う。	②③⑥⑨⑭⑰⑱	A		
高 等 部	個に応じた学習指導・支援の充実と「できる・できた」を実感しながら自ら取り組むことができる授業づくりに努める。	生徒一人一人の課題や実態に応じた学習内容や学習形態の工夫を行う。またICTの積極的な活用や達成感や充実感を味わえるような体験活動の充実により生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	①②③④⑩⑪⑬	A	A	○コース制を廃止し、生徒の実態に応じて柔軟にグルーピングを行ったり、目標設定、学習内容を工夫したりすることで、より個に応じた学習を充実させることができた。また、ICT機器の活用により、生徒が主体的に学び「できる・できた」と感じられる場面が多く見られた。 ●目標や学習内容が重なっていたり、1～3年生で同じような内容の学習が行われていたりする。 ◇各教科・領域の目標や学習内容を精選して、明確化し、系統的・継続的な教科指導ができるようにしていく。 ○卒業後の生活を見据え、日々の学習の中で社会生活のルールやマナーを実践的に学習するとともに、進路校外学習、職場体験、現場実習など様々な体験活動を行うことで、自己理解を深め、進路についての意識を高めることができた。 ●将来の自立と社会参加のため、課題解決能力を身に付けていく必要がある。 ◇主体的・対話的な学習の充実を図り、自ら考えて取り組む力の育成に取り組む。 ○学年・学級を超え、様々な人と交流しながら学習する場面を多く設定することで、自他の良さ認めながら「学びあう」ことができ、自己肯定感を高めることができた。また、生徒会や委員会活動など生徒一人一人が責任を持って自分の役割を果たすことができた。
	卒業後の生活を意識した様々な体験学習を通して、主体的な社会参加の意欲を高める指導の充実を図る。	日々の学習や進路学習をとおして、社会生活のルールやマナーを実践的に学ぶとともに、自己理解を深め、進路選択や進路決定できるようにする。また、現場実習、職場体験等においては、本人の実態や家庭環境に配慮したより個に応じた働く経験の充実を図る。	⑤⑨⑭⑰	B		
	安心・安全な環境の中で、自他を認めながら協働的に取り組む力を育てる。	日々の清掃活動や整理整頓の徹底により、安全な学習環境を整備する。また、様々な学習集団の中で、生徒一人一人が責任をもって役割を果たし、自他の良さを認めあう心を育成する。	⑦⑧⑭⑮⑰⑱⑳	B		

高 1 年	主体的な社会参加に必要な基礎的な態度と技能を知り、個々の目標に向かって取り組む生徒を育てる。 一人一人の違いを認め、自分の強みや適性を知り、主体的に行動する態度を育てる。 他者とのつながりや人間関係の中で、相手を思いやり、自ら挨拶のできる生徒を育てる。	主体的な社会参加に必要な基礎的な態度と技能を個に応じた確認し、全ての学習につながりをもち、個別の目標を達成できる学習を実践する。	②⑬⑭	B	B	○自立活動・職業・総合的な探究の時間の中で、自己理解を深め、良いところや課題点等を確認し、学期ごとの目標や校内実習での課題に生かし、実践・反省・課題とつなげて学習を実践することができた。 ●自己理解を深める学習内容において、各教科でねらいや学習内容を明確にしないと重複してしまいねらいが曖昧になってしまう。 ◇年間指導計画の自立活動・職業・総合的な探究の時間の自己理解についての内容を吟味し精選する。 ○集団活動が苦手な生徒、スムーズな登校が難しい生徒、情緒が不安定な生徒など個に応じて学年全体で協力し対応をすることができ、少しずつ学校生活が安定してきた。 ◇不登校が続いている生徒への対応を計画的に進める。 ○学校生活では係活動の中で、家庭生活ではお手伝いを励行をする中で、自分の役割をやり遂げる姿や互いに認め合い「ありがとう」などの言葉かけをする姿が見られた。 ◇休業中だけでなく、普段の生活の中でもお手伝いを日常化し、家庭での役割について、定期的に振り返る時間を設定する。
		実態に応じた学習内容と場の設定により、生徒が自ら強みや適性に気づき社会で生きていく中で活用できる学習の場を展開する。	①③⑩⑪⑮	B		
		学校生活と家庭生活の両面から、自分の役割を考え、友達、教師や家族と協働する中で、つながりや互いを認める気持ちを大切にするとともに、態度を育てる指導・支援の充実を図る。	④⑤⑥⑬⑭⑮	B		
高 2 年	主体的に学習に取り組み、達成感や充実感を味わいいろいろなことに挑戦する生徒を育てる。 高等部卒業後の生活を見据え、将来の自立に必要な資質能力を身に付ける生徒を育てる。 自他のよさを生かしながら、多様な他者と協働して問題解決を図る力を育成する。	活動内容や環境を調整し、見通しをもって学習活動に参加できるようにするとともに、ICTの活用をはじめ、個に応じた指導及び支援の充実を図り、生徒が「できる」「できた」を実感できる授業を行う。	①②③④	B	B	○学習の個人目標別学習や見通しがもてるような学習展開をすること、生徒が興味をもつICTを日常生活から学習活動において活用して支援の充実を図ったことで、生徒が「できる」「できた」を実感する授業を概ね実践することができた。 ◇次年度はより主体的、対話的な学びを充実させる。 ○生徒各々の目標を細分化し、目標達成の成功体験を多くすることで、働く喜びややりがいを実感できるように支援してきた。働く喜びややりがいを実感できたことで、社会生活に必要なあいさつや身辺整理などを自ら意識して改善しようとする生徒も多く見られた。 ○生徒自身の自己肯定感や自己有用感が少しずつ高まってきたので、各々の将来の自立に向け必要な能力を身に付け表現できるようになってきた。 ●実習先でも学校同様に身につけた能力を十分に発揮する。 ◇校外においても各々の将来において身に付けた自立に必要な能力を発揮できるように支援する。
		作業学習や校外の実習等の経験を通し、働く喜びややりがい実感したり、自分の目標や課題を捉えられるようにする。また、あいさつや身辺整理等、社会生活に必要な資質能力が定着できるよう指導及び支援をする。	⑤⑬⑭⑮	B		
		学校生活全体を通し、自己肯定感や自己有用感が高められるようにするとともに、他者とかかわる中で、生徒が自己理解を深めたり社会性を身に付けたりすることができるよう指導及び支援をする。	⑬⑭⑮	B		
高 3 年	主体的に学習に取り組み、学ぶよろこびや充実感を味わう生徒を育てる。 卒業後の生活を見据え、自立と社会参加に必要な資質能力を身に付ける生徒を育てる。 自他のよさを生かしながら、多様な他者と対話をしたり協働して問題解決を図ったりする力を育成する。	学習内容や環境を調整し、見通しをもって学習活動に参加できるようにするとともに、ICTの活用をはじめ、個に応じた指導及び支援の充実を図り、生徒が「わかる」「できる」授業を行う。	①③⑪⑮	B	B	○生徒の実態に応じた学級環境整備や個に応じた指導を行うことができた。 ○タブレット端末が配備された昨年度よりも、さらにICT機器を効果的に活用した学習活動を展開することができた。 ○職業・総合的な探究の時間・作業学習を中心とした学習や実習を通し、将来の自立に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、進路についての意識を高めることができた。 ○コース制を廃止した学級編成により、生徒同士が自他の良さを生かしながら学び合う場面を設定することができた。また、そのことにより学級や学年の一員であることが意識された。 ●主体的、対話的な学びを充実させることを課題とする。 ●学校、家庭、企業や福祉施設が生徒の課題や目標について共通理解をするとともに、その内容を個別の指導計画等に反映し指導することが重要である。 ◇生徒が主体となり、他者の多様な考えに触れたり、協働して課題解決を図ったりできるよう指導する。 ◇課題解決を通して各種教科・領域の見方・考え方を習得する学習、教師や他の生徒との対話や共同作業を通して学びを深めていくような学習を推進する。 ◇個に応じた学習指導・生活指導・進路指導を充実させるとともに、高等部3学年全体の課題意識や目標を共有できるような学年経営を図る。
		作業学習や校外の実習等の経験を通し、働く喜びややりがい実感するとともに、自分の進路が決定できるようにする。また、社会生活に必要な資質能力が定着できるよう指導及び支援をする。	②⑤⑭	B		
		学校生活を通し、自己肯定感や自己有用感が高められるようにするとともに、他者とかかわりを通し、生徒が自己理解を深めたり社会性を身に付けたりすることができるよう指導及び支援をする。	③④⑬⑮	A		

訪問教育	児童生徒が自分の気持ちを表出できるように、学習内容や指導方法の工夫に努める。	児童生徒の実態の把握に努め、生活年齢や発達段階に応じた学習内容や指導方法の研究研修を進めるとともに、教材・教具の開発や扱い方の工夫に努める。 児童生徒の気持ちを伝えようとする微細な表出に気づき、その感情や意思を見取り、言語化したり共感したりすることで意欲を高める。	①②③⑥⑩⑪ ⑬	B	B	○同じ単元で学習する際にも、個々の実態に合った教材や教具をアレンジしたり、作成したりすることで、児童生徒が教材を扱いやすくなり、自らの動きや表情を引き出すことができた。 ●教材研究や指導方法を研修する時間の確保が難しかった。 ●生活年齢や発達段階を意識した学習内容を考える。 ◇長期休みを活用して研修時間を作ったり、学習形態や内容の検討を行う。 ○タブレット端末を活用と具体物の提示を併用し、視覚や聴覚、触覚に訴えることで、興味関心を引き出すことができた。 ●個々の自己選択や自己決定がしやすい方法を共通理解する。 ◇インターネット環境がより整備されるとタブレット端末がさらに有効活用できる。 ○病院の看護師、指導員、作業療法士等と連携を図り、安心安全に学習することができた。
	具体物やタブレット端末を活用し、自己選択や自己決定する力を育てる。	実物に触れたり、身体で感じたり、季節を感じたりすることができ教材・教具を工夫する。また、実体験が難しい活動は、タブレット端末等を活用して、疑似体験できるようにし、興味関心を引き出しながら、自己選択や自己決定する機会を増やす。	⑭⑮⑰⑱	B		
	安全・安心に配慮した学習支援や学習環境の充実を図る。	児童生徒にとって、心地よい経験を積み重ねていくために、保護者や病院関係者との連携を深め、安全・安心に配慮した教育環境の整備に努める。 病院や保護者と連携し、安定した環境で活動できるようにする。	⑲⑳	A		

※評価基準：A：十分達成できている（90%以上） B：達成できている（80%） C：概ね達成できている（60%） D：不十分である（40%） E：できていない